

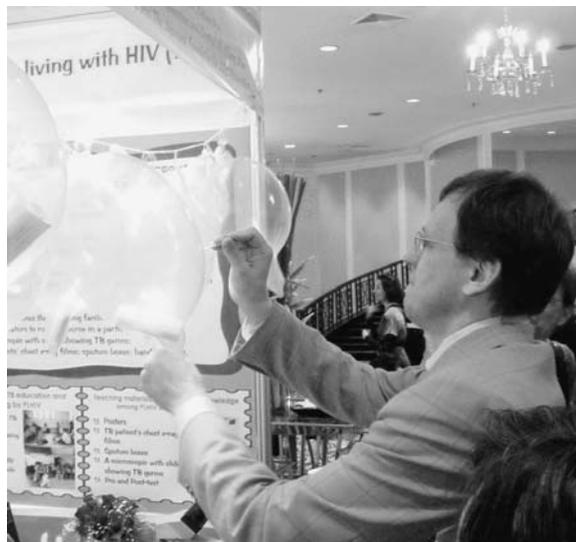
タイ国チェンマイ県における UNAIDS理事会開催 —JATAブースの反響—

結核研究所国際協力部
堀井 直子

本年4月23～25日、タイ国チェンマイ県においてUNAIDS理事会が“結核とエイズ”のテーマのもと開催され、政府、NGO、エイズ患者同盟の代表が出席した。論議の焦点は、結核がHIV感染者にとって脅威であることを認識し、結核対策の強化に伴うHIV患者へのより効果的な支援策の可能性を模索することにおかれた。シディベーUNAIDS副総裁は、結核・エイズ二大感染症対策のための“戦略的パートナーシップ”の構築が急務であると表明された。

今回の会議は、結核対策をなおざりにしてHIV対策を講じることはできないこと、HIVの包括的ケアの枠組みで、結核感染予防、治療及びケアなどのサービスを同時提供する重要性について再確認する機会となった。今回UNAIDS理事会で結核・HIVの重複感染対策が議題に挙げられたこと、また統合的アプローチによる二大疾患対策の重要性が確認された意義は大きい。

会議会場となりの展示室では、世界中から集まった団体がポスター発表、ブース等の展示を行い、結核・エイズの協調のあり方に関する見識や経験を共有する場となった。結核予防会／結核研究所は、長年に及ぶチェンライ地方へのエイズ・結核研究プロジェクト、支援を実施してきた。同地方における結核・エイズ疾患にかかる指標に改善が見られ、死亡率は26.5%に削減し、結核患者のうちHIV検査受診の割合も87%に上昇した。



ブースを訪れ結核クイズに挑戦するWHOストップ結核ダイレクターのDr.ラヴィリオーネは、もちろん正解されました！

これまでの活動の成果について、結核予防会／結核研究所、現地NGOであるタイ国結核・エイズ研究財団、チェンライ郡保健局、日本のエイズ予防財団、タイ北部地方CDC、エイズ患者ネットワーク等から構成される「結核・HIV重複感染対策のためのタイ・日本国同盟」の名の下ブース展示を行い、大きな反響を呼んだ。

同分野の研究者、公衆衛生プログラム担当、エイズ患者ネットワーク等のステークホルダーが協力して、結核・エイズの協調を行うために何をすべきかを問いかけ、チェンライでの研究プロジェクト紹介が主眼に置かれた。

このブース展示に先駆けて、理事会の席上タイ国結核・エイズ研究財団のDr.パチャリー・カンテイボンが「結核・HIV重複感染対策のためのタイ・日本国同盟」を代表して、ブースのアピールをした際、「コンドームが、エイズ患者の結核に対する意識を向上させることができる、そう信じますか？

答えはブースで！」と会場に呼びかけた。ブースの前に立ち、まず目に入るのは天井から吊るされた透明の風船。実はコンドームを膨らませて並べたもので、これを割ると中から、結核についての豆知識を問うクイズが。つまり、このコンドームでできた風船ゲームを通して、結核クイズを楽しみながら学べるという工夫が凝らされていた。訪問者の中には、WHOストップ結核ダイレクターのDr.マリオ・ラヴィリオーネ（写真）はじめ、多くの結核・エイズ専門家がブースを訪れ、全員が「コンドームによる結核の知識促進」ゲームを楽しんでおり、オリジナリティーに溢れた展示内容が好評を博した。

その他、結核診断を実施するためのエイズ患者グループリーダー、ヘルスワーカーのエンパワメントを目的としたトレーニングカリキュラム、マニュアルが結核予防会結核研究所の技術・資金協力により作成・出版され、同ブース訪問者に配布された。



マニュアルの表紙（結核研究所作成）